

研究発表

「ICT を活用した読書週間の取組～同時双方向通信を活用した協働学習の実践を通して～」

愛知県立大府特別支援学校 教諭 小原 保男

提案内容

(1) 研究概要

本校は、県内唯一の病弱・虚弱児を対象とした特別支援学校であり、疾患の状態が継続して医療または生活規制を必要とする児童生徒が在籍している。大府市にある本校舎には、自宅から通学する児童生徒や、隣接するあいち小児保健医療総合センターに入院する児童生徒も通っている。また、名古屋大学医学部附属病院、JCHO 中京病院、藤田医科大学病院の中にも施設内学級がある。

本研究では、普段人との関わりが少なくなりがちな小学部児童同士の交流がもてるよう、読書週間で協働学習を実施し、その成果を検証することにした。

(2) 研究のねらい

本校に在籍する児童は健康面の問題から、多様な学習環境での学校生活を送っており、入院中で病室からなかなか出られない児童、長期に渡る治療のために生活経験が少ない児童などが多く在籍している。本研究では、同時双方向通信を活用した協働学習により、

- ・人との関わりを広げる。
- ・主体的・対話的な学習を通して学びを深める。
- ・読書への興味や意欲を高める。

の三つをねらいとし実践を行った。

(3) 実践内容

本校の読書週間（6月27日～7月8日）に合わせ、以下の内容で取り組んだ。

- ・「読書マラソン」（写真①）や「読書カード」（写真②）を活用し、読書活動への意欲付けを行う。
- ・読み聞かせを聞き、児童同士で感想やおもしろかった場面を発表し合う。（写真②）
- ・「自分の好きな本」を選び、好きな場面やおすすめポイントをまとめる。
- ・児童同士で「自分の好きな本」を発表し合う。また、簡単な質問をしたり、質問に答えたり、感想を伝え合ったりする。

(4) 実践の成果

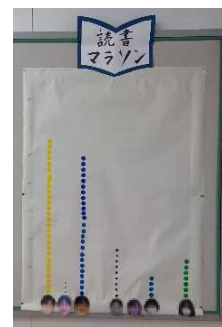
同時双方向通信を使った読み聞かせでは、児童一人ひとりにタブレット型携帯端末を準備して実施し、全員の児童が自分の手元画面を注視して教師の読み聞かせを鑑賞できるよう配慮した。

児童同士で感想を発表し合う場面では、どの児童も友達の発表を落ち着いて聞き、積極的に発表することができた。zoom アプリのリアクション機能を使ったり、大きな動作で分かりやすく画面向こうの児童に思いを伝えたりしながら、どの児童も自分の好きな本や印象に残った場面について意見を交換することができた。

(5) まとめと今後の課題

同時双方向通信を活用し、本校の児童に不足しがちな大きな集団で話し合い、学びを深め合う機会を作ることができた。また、他の児童とのコミュニケーションが容易に確保できる環境を整えることで、学習意欲が向上し、主体的・対話的で深い学びにつながる協働的な学習を進めることができた。

今後の課題点を挙げるとすれば、①通信環境の改善や通信費の確保、②図書本や図書資料の電子化による活用拡大ではないかと考える。ICT 機器のさらなる活用で、教科指導の効果を高めること、また障害による学習上の困難さの改善克服につながることを願っている。



（写真①）



（写真②）

